

特別報告

山西医科大学における看護学会への参加報告

吉田 和枝¹

山西医科大学における看護学会への参加と今後の中国での産痛に関する研究の準備を行うことを目的とし、2009年8月に山西省太原を訪問した。訪問した一行は私と、兵庫医療大学、大阪医科大学、関西福祉大学、園田学園女子大学の看護教員と、助産院を開業している助産師2人の計7人である。北京駅から列車に乗り、約3時間で山西省の太原駅に到着した。列車は2009年4月から運行が開始された高速列車（新幹線）であり、以前よりも5時間も短縮されたとのことである。中国の大規模な運営路線の開発が急速に進んでいることが肌で感じられた。



図1 太原駅前

山西医科大学のある太原は山西省の省都である。太原は古くは晋陽と呼ばれ2500年の歴史を持ち、現在の人口は約350万人である。平均海拔800mで、夏は気温が約30℃まで上昇するが、冬季は-20℃度まで低下することもあり、寒暖の差が大きいところである。降水量は年間を通じて少なく乾燥している。地下資源が豊かな地であり、石炭や鉄鋼産業が盛んで重工業地帯となっており、ステンレス鋼の生産量は世界第1位を誇っている。近年の産業経済発展は著しいが、同時に大気汚染も深刻であり、環境改善に取り組んでいる最中であった。

山西医科大学は、附属施設として第一医院および第二医院を持ち、山西省において中心的な先進医療提供の場としての役割を担っている。医学教

¹ 石川県立看護大学

育は約90年の歴史があり、また、看護に関しては、2001年に初めて山西医科大学看護短期大学が創設され、それ以降は大学、大学院も開校され、現在では看護学士、修士も輩出している。質の高い看護教育をめざし、質の高い看護職員を育成している。我々は日本におけるリプロダクティブヘルスに関する発表として「女性の生涯における Reproductive Health と看護」「糖尿病女性の妊娠・出産・育児の支援」「性感染症予防のための婦人科受診行動 支援」「日本における産痛への援助」「開業助産師の活動（1）—育児支援—」「開業助産師の活動（2）—出産支援—」アトピー性皮膚炎乳幼児の母親への支援」を行い、山西省側からは「山西省の女性と子どもの医療の現状」についての発表がなされた。約320人の看護関係の方々の参加者があった。ただ、我々日本側の発表が主体となっており、中国側の発表が少ないのがやや残念であった。



図2 山西医科大学



図3 看護学会発表会場

山西医科大学附属病院のほかに、児童・女性病院を視察した。この病院は、日本の母子センターのような役割を果たしている。14歳未満の児童および女性を対象としており、山西省全土より患者が搬送されてくる基幹病院となっている。全800床あり、児童の入院数は年間2500人以上である。児童の肺炎等の呼吸器疾患は少なくなく、気候、季節性のほかに、前述した大気汚染も大きく影響していると考えられた。近々、本病院施設は現在規模の倍にあたる1600床に拡張することになっているとの事であった。NICUに関しては、出生体重が500gの新生児のケアに成功したと院長が説明された。欧米や日本等からの医療先進国よりその技術を急速にまた確実に取り入れ医療の改善が図られている様子が伺えた。母親たちは、感染予防のため直接NICUに入室することは禁じられていたが、NICU室内全体が写されるカメラがあり、コンピューターを介して大きなスクリーンに映し出される。そのスクリーンを通して母親がわが子の様子を見ることが出来るシステムとなっていた。NICUにおいては徹底した母児分離の感染予防管理が行われている様子であったが、NICUにおける直接的な母児接触には様々な利点もあるのだが、それらの見解についてお聞きする十分な時間がとれず、今後の情報交換での宿題となった。

分娩室にはLDR (Labor-Delivery-Recovery) bedは設置されていなかったが、基本的には、ほぼ日本と同様の状態であった。産痛に関しては、針麻酔という方法が文化革命時には、宣伝のために使用されていたこともあったらしいが、現在は使用されていない。ほとんどが産痛緩和に関して自然が主体となっているが、一方で硬膜外麻酔に関するパンフレットも用意されていた。



図4 山西医科大学附属病院分娩室風景



図5 山西医科大学附属病院

短期間の訪問であったので十分な情報を得るまでは届かなかったが、今後の中国での産痛とそのケアに関する研究を行うための準備として人的な繋がりをもてたことは大きな収穫であり、協力が得られることが確認された。

最後にこの訪問に関して、山西省衛生庁国際センター、山西省看護協会、山西医科大学および附属病院の方々に心から感謝申し上げます。

本視察は科学研究費補助金（基盤研究C 吉田和枝）を受けて実施した。

(受理：2009年12月30日)

**Participation in a Nursing Conference
at Shanxi Medical University**

Kazue YOSHIDA